

特種東海製紙株式会社

個人投資家様向け会社説明

2025年8月29日

東証プライム 証券コード：3708



本日お伝えしたいこと

「特種東海製紙」とは？

特種東海製紙が描く成長ストーリー

株式情報

登壇者プロフィール

代表取締役社長

木村 隆志

Kimura Takashi



経歴

- 2002年 8月 特種製紙株式会社 入社
- 2016年 6月 当社経営企画本部企画業務部長
- 2022年 7月 同理事経営企画本部長
- 2024年 7月 同執行役員資源再活用本部長
- 2025年 4月 同常務執行役員社長付
- 2025年 6月 同代表取締役社長（現職）

目次

- 01 会社概要
- 02 事業紹介
- 03 中長期成長戦略
- 04 直近の業績動向
- 05 まとめ

目次

01 会社概要

02 事業紹介

03 中長期成長戦略

04 直近の業績動向

05 まとめ

設立

2007年

資本金

114.85億円

グループ子会社

15社

2025年3月末時点

連結従業員数

1,863名

2025年3月末時点

生産拠点

製紙関連工場 8 拠点 リサイクル工場 13 拠点

2025年3月末時点

売上高

948億円

2025年3月期実績

時価総額

563.5億円

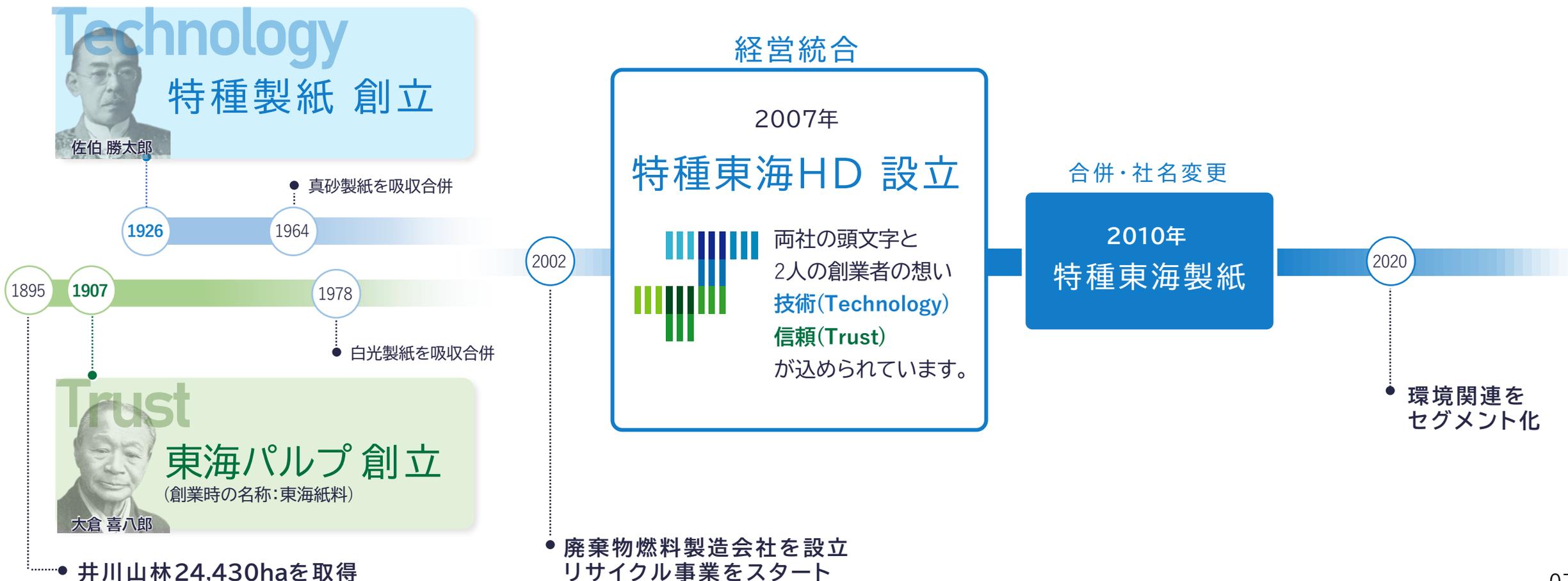
2025年8月22日時点

特「種」の由来

特種東海製紙

特別な原料(=タネ)を使用することで
当社独自の特殊な紙を製造したいという思いより

2つの製紙会社が2007年に経営統合 来期で20期目を迎えます



創業の精神を受け継ぎ、社会のニーズに応えながら成長を続けています

経営理念

ユニークで存在感のある企業集団として、
社会と環境に貢献する

目指すべき
企業像

技術と信頼で 顧客と共に未来をひらく
オンリーワンビジネス企業

目次

01 会社概要

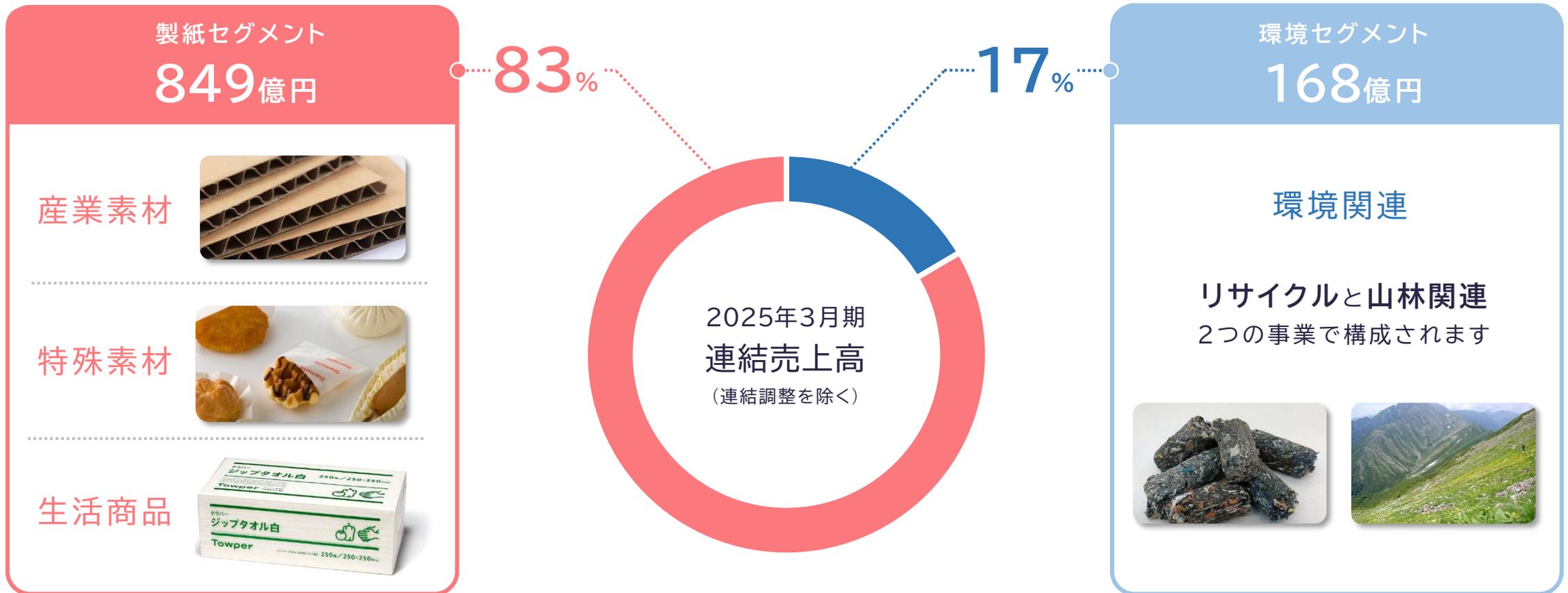
02 事業紹介

03 中長期成長戦略

04 直近の業績動向

05 まとめ

製紙3セグメント + 環境1セグメントで構成されています



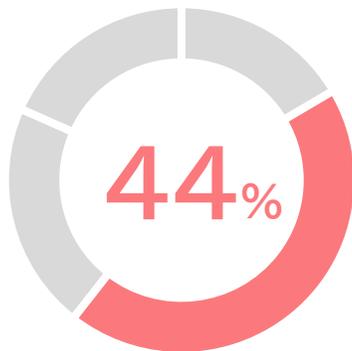
東海パルプ時代から続く広大な工場で産業界を支える包装材を製造

概要

主な事業

- 段ボール原紙・クラフト紙の製造販売
- 水力発電による売電

連結売上高に占める割合



2025年3月期
実績

448億円

主な製品・サービス

段ボール原紙・クラフト紙



飲料や工業製品を輸送する際の段ボール、および米袋などの包装に使用。日本製紙株式会社と協業する販売会社を通じて外部へ販売。損益は持分法投資損益により経常利益で認識。

水力発電



発電した電力はFIT制度(再生エネルギー固定価格買取制度)を利用し全量売電。約16,000世帯分の年間使用電力量に相当。

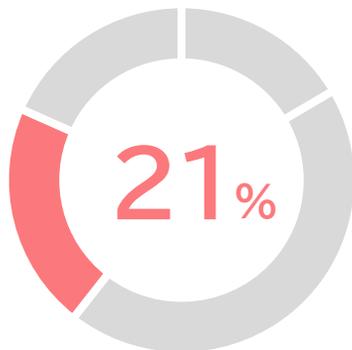
受け継がれてきた技術を強みにニッチ市場でシェアを獲得

概要

主な事業

- 小ロット多品種を特徴とする特殊紙の製造販売

連結売上高に占める割合



2025年3月期
実績

215億円

主な製品・サービス

特殊印刷用紙



一般的な印刷用紙ではなく、単行本の装丁や高級パッケージなどに用いられるファンシーペーパーや写真集やパンフレットに用いられる高級印刷用紙を数千種に渡ってラインナップ。

特殊機能紙



通帳用紙や偽造防止技術を駆使した商品券用紙、食品包材などに用いられるクリーン度の高い工業用紙など、あらゆるニーズに応える幅広い機能性を提供。

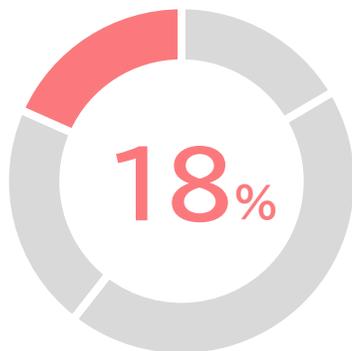
古紙を活用した業務用品を主力に高い品質の生活必需品を提供

概要

主な事業

- 衛生用紙、ラミネート加工品の製造販売

連結売上高に占める割合



2025年3月期
実績

186億円

主な製品・サービス

トイレットペーパー



ふるさと納税の人気お礼品
ランキング1位※にも選出さ
れた高い品質。

※さとふる〈中部版〉2024年上半期

ペーパータオル



肌ざわりがよく吸水性にも
優れ、商業施設や飲食店な
ど様々な場面に対応。

ラミネート加工



機能性と美粧性を兼ね備え、
コンビニの弁当箱やテーマ
パークのお土産品などで採用。

経営資源を活かせる製紙以外の事業領域として2021年3月期よりセグメント化

環境関連セグメントは2つの事業で構成



リサイクル

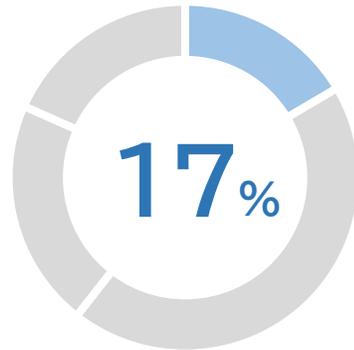
- 廃棄物の収集運搬・中間処理
- 廃プラ・家電などの再資源化
- 廃棄物燃料の製造



山林関連

- 山林管理・土木建築
- 山小屋の運営・ウイスキー製造

連結売上高に占める割合



2025年3月期
実績

168億円

製紙に次ぐコア事業として注力
事業規模は着実に拡大

リサイクル工場

+7 拠点※

連結売上高に占める割合

+9%※

※いずれも2020年3月期(セグメント化前)と2025年3月期の比較

製紙とリサイクルはもともと関わりが深い事業領域

製紙とリサイクルに関わり

古紙利用率
約**67%**※

日本の古紙利用率・回収率は
世界でもトップクラス
※経済産業省「生産動態統計」

廃棄物・バイオマス燃料活用の仕組み

特種東海製紙グループの取組み

古紙利用率
約**76%**



廃棄物・バイオマス
燃料の使用比率 **80%**

2002年: 廃棄物燃料製造会社を設立
2006年: 業界に先駆けバイオマスボイラを導入



大量生産
大量消費



資源を繰り返し使う
循環型社会へ



これからの社会ではリサイクル = 社会インフラ

2050年	120兆円
2030年	80兆円
2020年	50兆円

循環経済関連の国内市場は
今後拡大していく見通し
(市場予想は日本政府試算)

- 素材・原材料の需要増大に対して将来的には資源は枯渇
- 廃棄物の移動を制限する条約など環境制約・リスクも

製紙業で取り組んできたリサイクルの仕組みが応用可能

リサイクルを製紙3事業に次ぐ第4の柱へ

上場会社がりサイクラーである信頼感

主な事業



環境セグメント | 山林関連



井川社有林の基本理念

自然を守り、自然を活かす

- JR山手線で囲まれる面積の約**4倍**に相当する24,430ha
- 民間が保有する一団地としては日本最大
- 1980年代に木材生産から撤退、以降は自然度を高める森林保全を実施



自然資本の保護と活用を軸とした事業活動を展開

主な事業

建築土木／農林緑化



井川山林の林業・土木技術を活かし河川改修工事、国道橋梁工事、公共事業の造成や植栽など幅広い事業を展開。



ウイスキーの製造



グループ子会社である十山が営む井川蒸溜所で2020年より製造を開始。レギュラーモデルの12年物完成までのプロセスを表現するデッサンシリーズを2024年より限定発売。

業績における ボラティリティの低さ

デジタル社会でも需要が
堅調な製品群により
安定した業績推移

製造業であり リサイクラーでもある

製紙を起点とする
独自のポジショニング

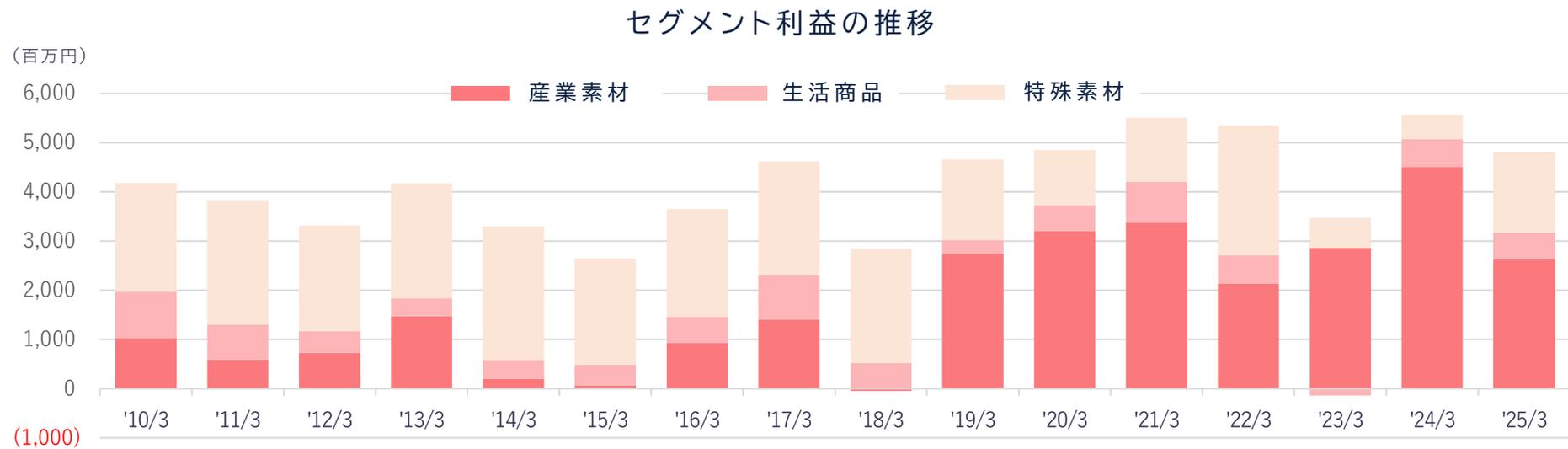
低炭素操業

カーボンニュートラル社会で
存在感を発揮

強み ① | 業績ボラティリティの低さ



需要が堅調な製品群に支えられ業績は比較的安定して推移

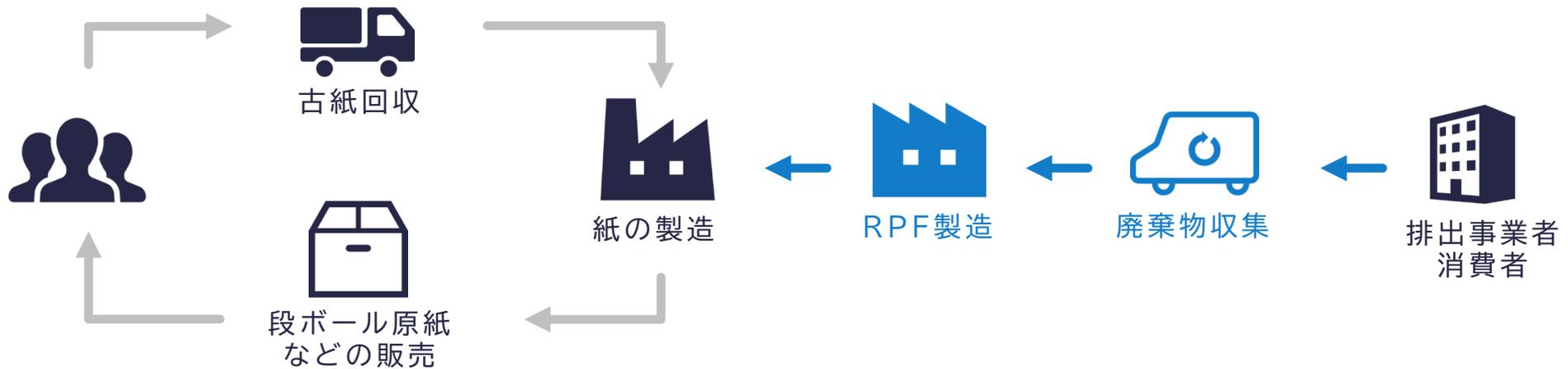


廃棄物の熱利用における一貫したリサイクル体制

製紙のリサイクル + 廃棄物燃料の製造機能 + 外部からの廃棄物収集ルート

一般的な製紙のリサイクル

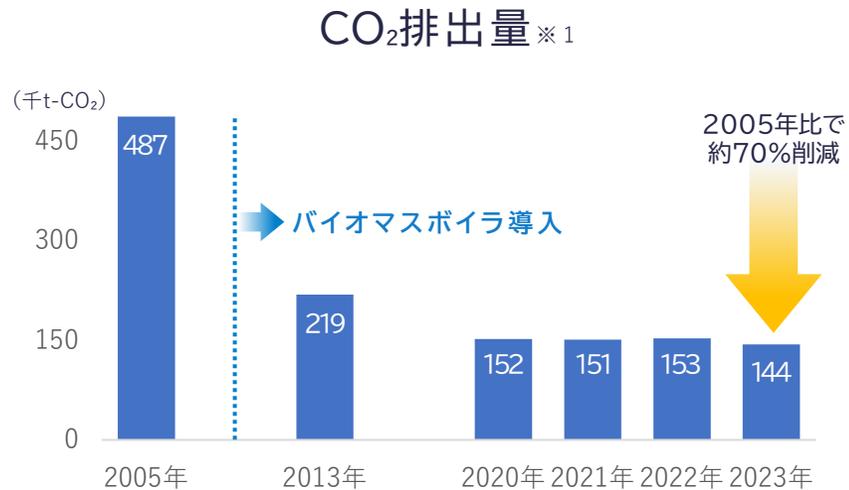
特種東海製紙グループの一貫体制



製造とリサイクラー双方のニーズを把握・共有
効率的なリサイクル事業が可能に

少ないCO₂排出量での工場操業を実現

エネルギー転換により製紙工場で使用する燃料のおよそ80%を廃棄物・バイオマスで操業



排出量取引制度 ※2 における該当グループ工場は0拠点

※1 特種東海製紙グループの製紙4社における生産活動に伴う化石エネルギー起源CO₂

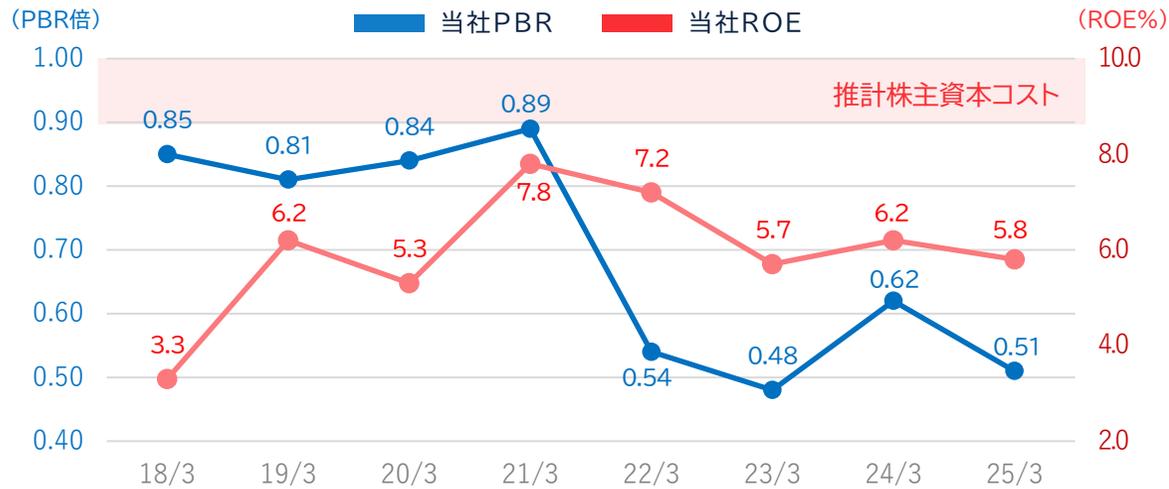
※2 現時点。制度は2026年4月開始予定

目次

- 01 会社概要
- 02 事業紹介
- 03 中長期成長戦略**
- 04 直近の業績動向
- 05 まとめ

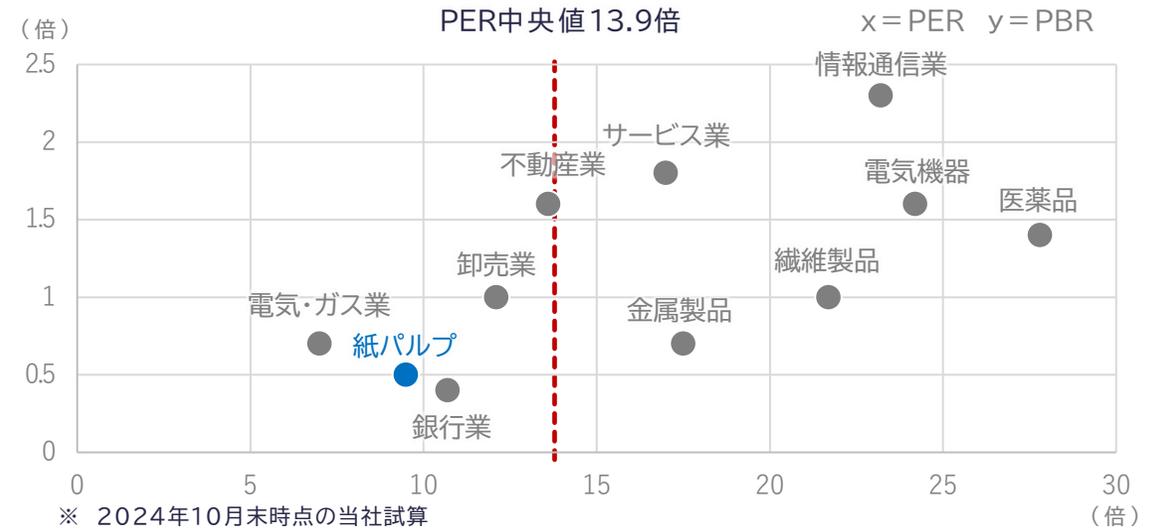
PBR1倍割れが継続 根本的な改善には資本収益力の向上が必須

PBR・ROEの推移



- PBR1倍割れが継続
- ROEは推計株主資本コスト約9.0%を3～4%下回って推移
- 当社を含む紙パルプ業界平均ROEが5～6%程度

業界別バリエーション



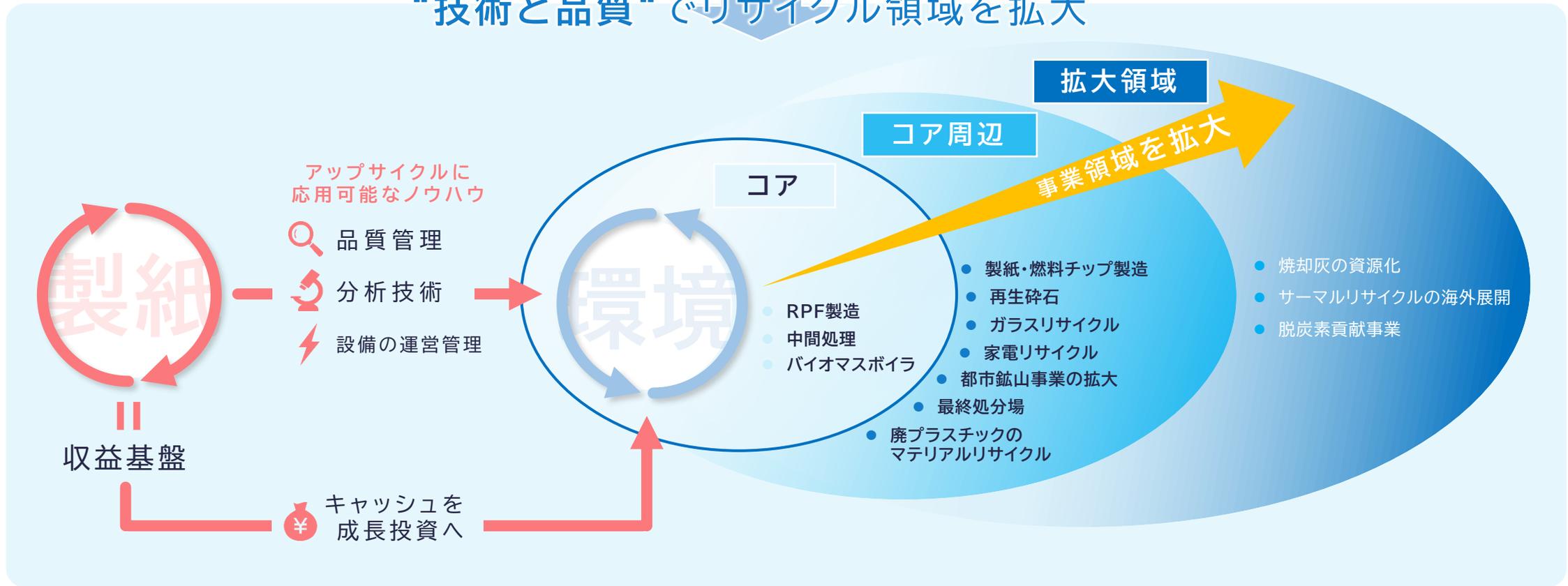
- 当社PER(9.8倍)は紙パルプセクタの平均値(9.5倍)並み
- 東証33業種の中央値(13.9倍)に対しセクタ自体への市場評価が低い傾向



**ユニークなビジネスモデルで、
持続可能な社会の実現に貢献し成長を図る**



“技術と品質”でリサイクル領域を拡大



成長ストーリーを前提に中長期経営計画を見直し・策定中

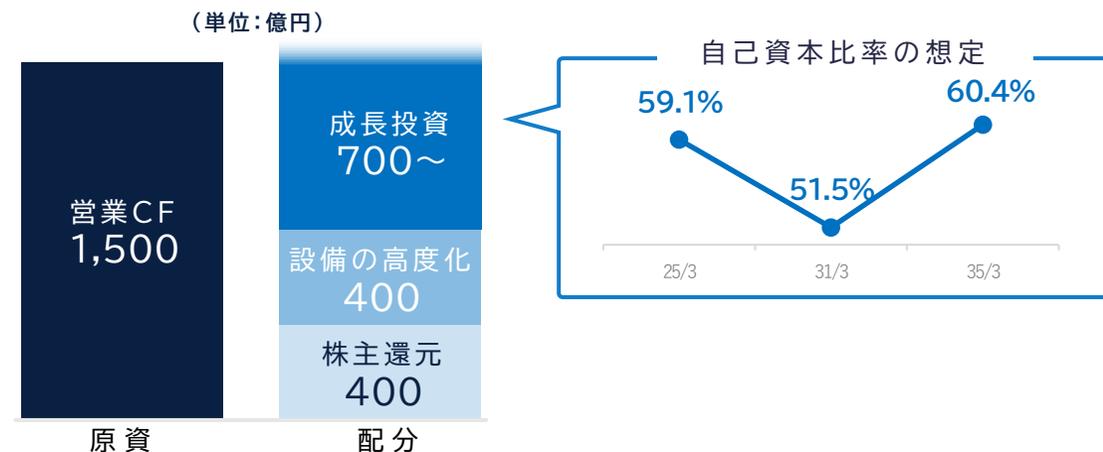
「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(2025年2月)」で
2026年5月公表予定の中長期ビジョンのアウトラインを開示

長期目標の修正



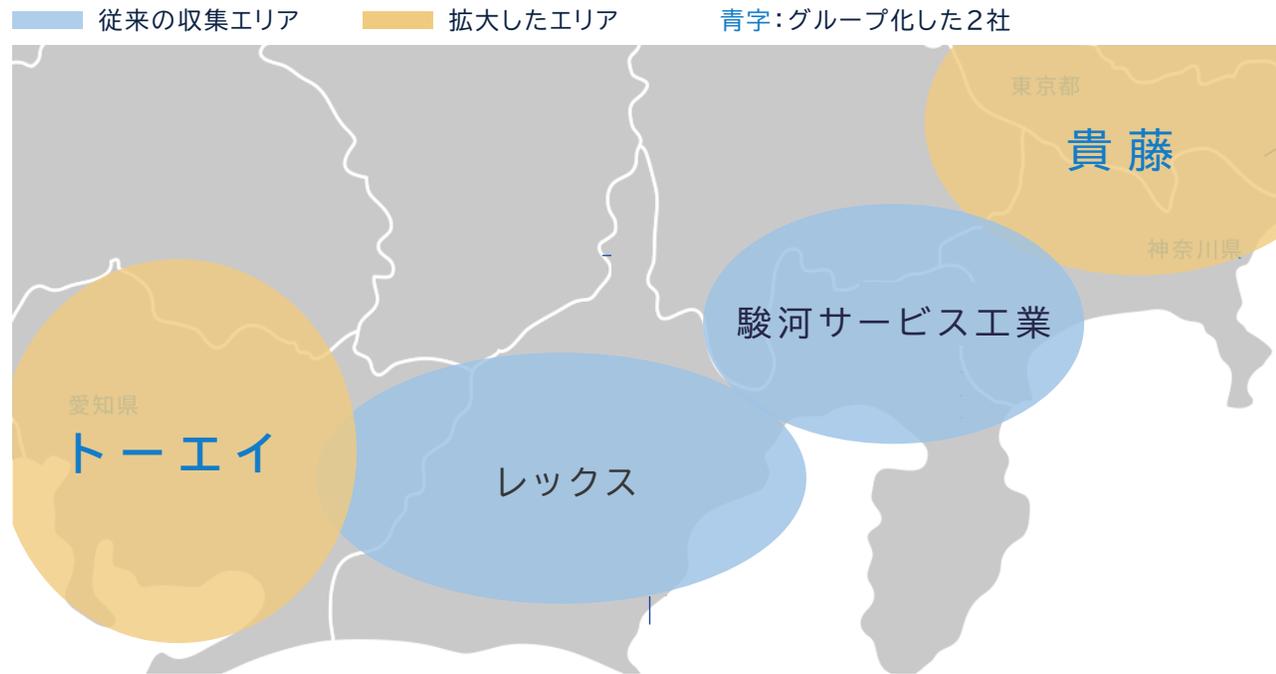
- 収益性の指標である株主資本コストとPBR改善への道筋を踏まえて上方修正

今後10年間におけるキャピタルアロケーションの方向性



- 一時的にレバレッジをかけても成長投資を積極化
- 営業CFを10年間計1,500億円まで成長させる想定
- 利益成長による成果は配当・自己株式取得等で株主の皆様へ還元

東京 - 静岡 - 愛知県の廃棄物収集ラインを構築



- 新たにリサイクル関連の企業2社がグループ化
- これにより静岡中心だった収集地域を愛知 - 東京へ拡大

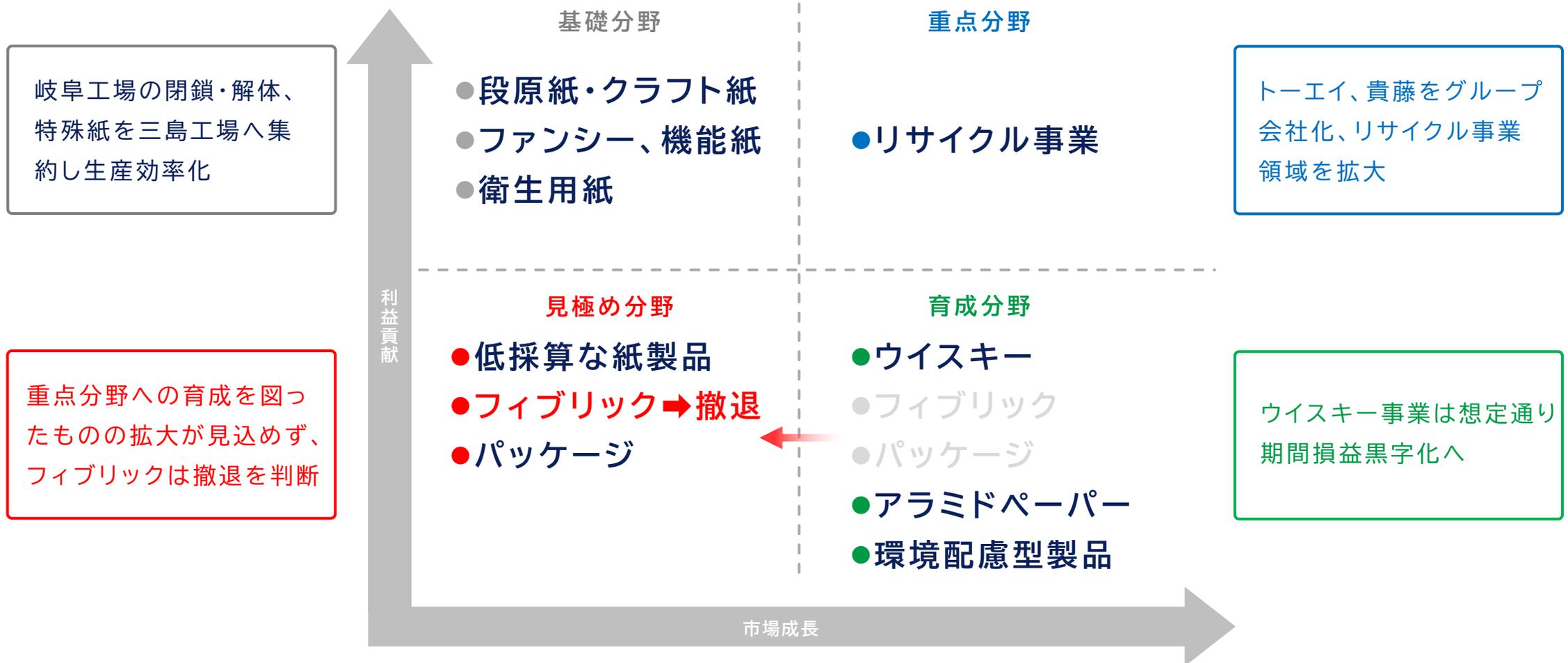
廃棄物燃料増産に向けた体制強化



生産設備のイメージ (画像は長泉工場)

- 廃棄物燃料製造工場を移転
- フル稼働時で現体制の約+20%生産量増加

事業ポートフォリオの見直し状況



目次

- 01 会社概要
- 02 事業紹介
- 03 中長期成長戦略
- 04 直近の業績動向**
- 05 まとめ

通期業績予想

(単位:百万円)	2025年3月期	2026年3月期 (予想)	前年同期比	
売上高	94,800	99,000	+4,200	+4.4%
営業利益	3,928	5,000	+1,072	+27.3%
経常利益	6,227	7,000	+773	+12.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,607	4,900	+1,293	+35.8%

売上・営業利益

- 特殊素材・生活商品における価格改定効果・堅調な販売数量、および環境関連事業の伸長などが見込まれることから増収増益の見通し

経常利益・当期純利益

- 支払利息など営業外費用増加が想定され、増益であるものの営業利益に比べ増加額は限定的となる見込み

第1四半期の業績

(単位:百万円)	2025年3月期 第1四半期	2026年3月期 第1四半期	前年同期比	
売上高	22,702	24,284	+1,582	+7.0%
営業利益	1,049	1,325	+276	+26.3%
経常利益	1,971	1,985	+14	+0.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,408	1,370	▲38	▲2.7%

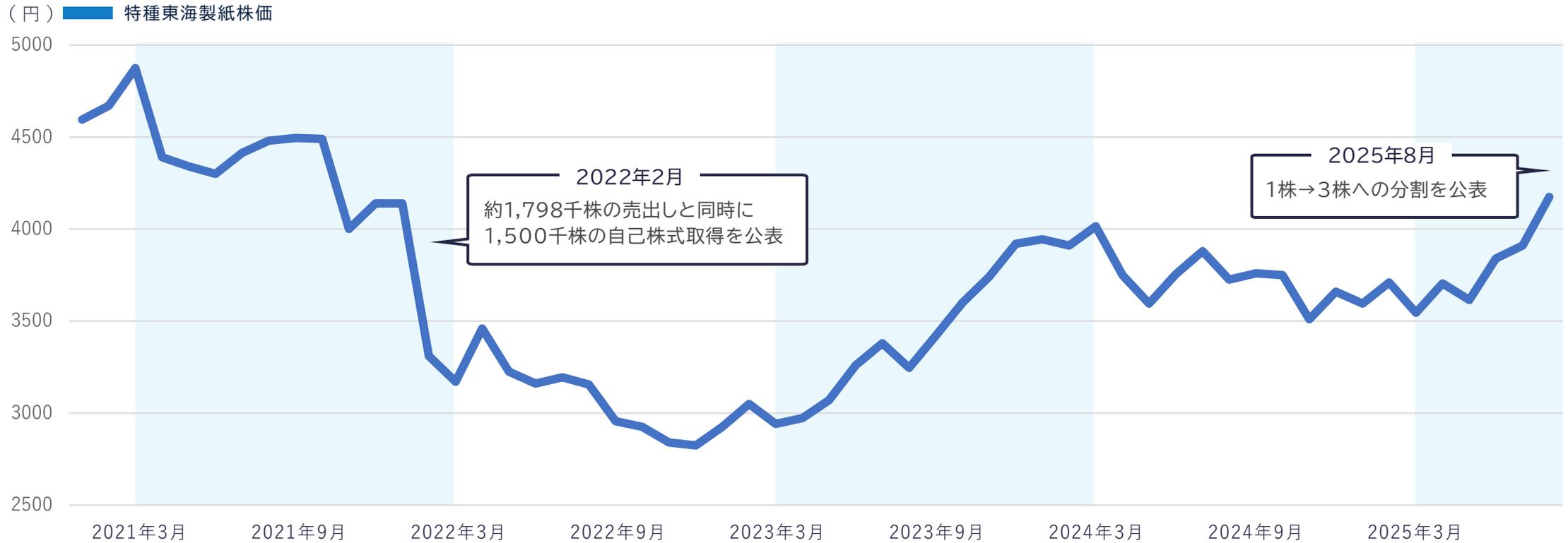
売上・営業利益

- 価格改定効果、及び前年同期比でリサイクル関連のグループ会社が1社増加したこと等により増収増益

経常利益・当期純利益

- 第1四半期の経常利益としては売上とともに19期中過去最高を更新。固定資産除却損の計上等により四半期純利益は微減

近年の株価推移

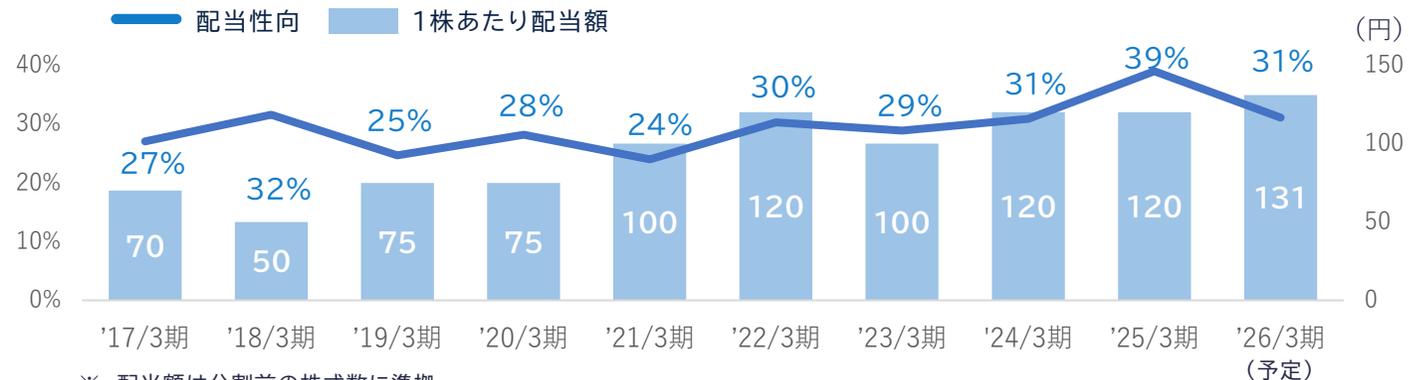


※ 株価は月間・終値ベース

株主還元の動向・株式分割

株主還元の動向

配当基本方針 | 配当性向30%を目処とした安定配当



自己株式取得

直近10年間で約**128**億円

- 資本効率を踏まえて機動的に実施
- 取得した株式は発行済み株式総数10%程度を上限とし超過分は消却

➡ 今後の還元策については中長期経営計画策定に併せ見直し中

株式分割

分割比率
1対3

分割基準日 | 2025年09月30日(火)
効力発生日 | 2025年10月01日(水)

- 当社株式へ投資しやすい環境を整備し流動性向上へ
- 株主優待は2025年9月末までに公表予定

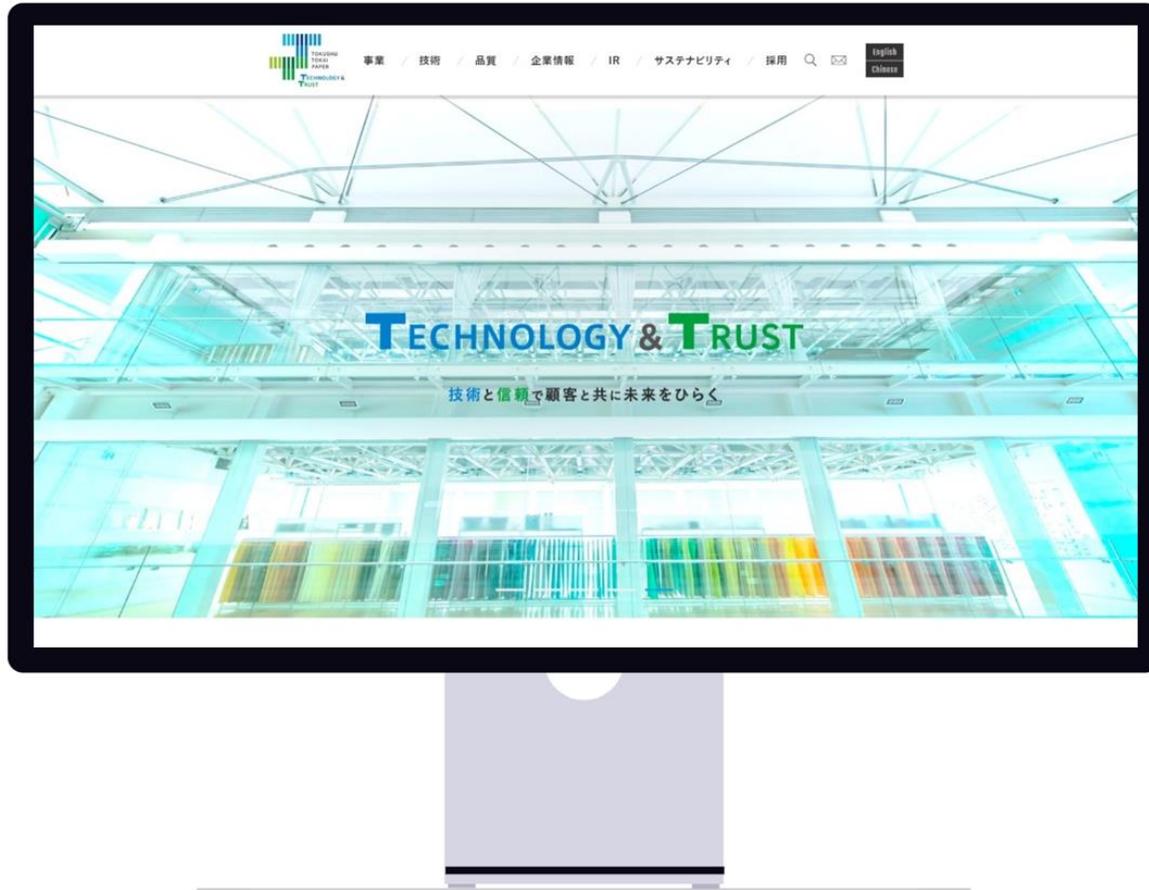
目次

- 01 会社概要
- 02 事業紹介
- 03 中長期成長戦略
- 04 直近の業績動向
- 05 まとめ**

製造業でもありリサイクラーでもあるトクシュな企業です

ユニークなビジネスモデルで、
持続可能な社会の実現に貢献し成長を図る

特種東海製紙グループにぜひご期待ください



IRページ

<https://www.tt-paper.co.jp/ir/>

